

清順流フィルム歌舞伎

かけろうざ

三度びお会いして、
 四度目の逢瀬は恋になります。
 死なねばなりません。
 それでも
 お会いしたいと思うのです。



陽炎座

監 編 美術 監督 集 協 力 西 田 鈴 木 清 順
 監 音 録 照 美 撮 脚 原 企 製 中 原 佐 伊 佐 玉 沖 磨 東 大 楠 加 大 松
 督 集 協 力 西 田 鈴 木 清 順 監 音 録 照 美 撮 脚 原 企 製 中 原 佐 伊 佐 玉 沖 磨 東 大 楠 加 大 松
 鈴 木 清 順 西 田 鈴 木 清 順 監 音 録 照 美 撮 脚 原 企 製 中 原 佐 伊 佐 玉 沖 磨 東 大 楠 加 大 松
 真 七 美 紀 文 雄 津 男 仙 克 塚 一 柴 田 中 鏡 花 伊 東 謙 二 荒 戸 源 次 郎 嘉 藤 雄 村 芳 雄 田 藤 芳 雄 佐 藤 弘 子 伊 藤 浅 夫 伊 藤 秀 子 玉 川 山 川 山 秀 子 沖 山 秀 子 磨 赤 恵 柳 枝 大 楠 加 大 松
 順 真 七 美 紀 文 雄 津 男 仙 克 塚 一 柴 田 中 鏡 花 伊 東 謙 二 荒 戸 源 次 郎 嘉 藤 雄 村 芳 雄 田 藤 芳 雄 佐 藤 弘 子 伊 藤 浅 夫 伊 藤 秀 子 玉 川 山 川 山 秀 子 沖 山 秀 子 磨 赤 恵 柳 枝 大 楠 加 大 松

TAISHO
 1926
 TOKYO


CINEMA PLACET 1981 PRESENTS **SINEMA PLACET** + NIPPON HERALD FILMS, INC. 配給



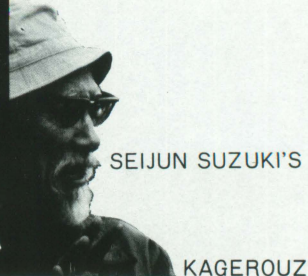
<カラー作品>

35%スタンダードサイズ

上映時間/2時間19分

日本ヘラルド映画・配給 

清順流フィルム歌舞伎 かけろろざ 陽炎座



SEIJUN SUZUKI'S

KAGEROUZA

清順美学、絢爛とここに満開!

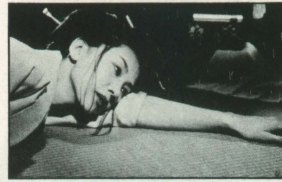
解説

「ツイゴイネルワイゼン」で、キネマ旬報ベストテン第一位をはじめ、国内の数々の賞を総なめにし、ベルリン映画祭でも審査員特別賞をさらってみせた、シネマ・プラセット（製作）鈴木清順（監督）のコンビが、さらにその製作規模をスケールアップ、さらにその華麗にして不敵な映像世界を満喫させて放つ

大作、それがこの『陽炎座』（かげろうざ）。
時は大正末年の一九二六年。松崎という新派の劇作家が、たび重なる偶然によって知りあつた品子という謎の美女の誘いにたぐり寄せられて、女たちの魔性の愛と憎しみの世界に踏みこみ、木の葉のように翻弄されながら、現世ともあの世ともつかぬあやかしの世界をさまよい歩くという物語。泉鏡花の同名の原作を田中陽造が脚色した。長い不遇を経て「ツイゴイネルワイゼン」で不死鳥のように甦つた鈴木清順監督が、大正風俗を背景に生者と死者の交錯という得意の世界を得て、奔放華麗な色彩美と意表をついた映像を躍動させる。まさに、『清順流

フィルム歌舞伎』の醍醐味が横溢である。
カメラは、清順作品の名コンビである永塚一栄、美術を池谷仙克（海鳥音）、照明を大西美津男、音楽は河内紀の担当で、演奏をモダンジャズ界の異才富樫雅彦が行なっている。

（シネマ・プラセット作品）



金沢、夕月楼にてお待ち申し候

物語

大正末年の一九二六年。東京。新派の劇作家松崎春孤（松田優作）は、落とした付け文が縁で品子（大楠道代）という美女と知りあい、偶然というにはあまりにも出来すぎたかたちで三度あう。

松崎は、その不思議をパトロンである玉脇（中村嘉祥雄）に話すが、ある夜品子と一夜をすごした部屋が玉脇の邸宅の一室とそっくり同じであることを発見した松崎は、品子が玉脇の妻ではないか、という疑念にとりつかれる。ところがそんな松崎の前にもう一人の美女イネ（楠田枝里子）が現われ、玉脇の家

内です」と名乗る。しかし奇怪なことに、イネは重い病気で、松崎と出会う前に病院で息をひきとつていた。
松崎の下宿先の女であり、かつて玉脇の屋敷に奉公していたみお（加賀まりこ）は、品子が先妻であり、イネは玉脇が留學先のドイツから連れてきた後妻のドイト娘のイレーネであること説明したが、この女の腹も、松崎には読めない。

品子との心中をそのかす玉脇から逃れた松崎は、アナキリスト和田（原田芳雄）と知りあい、老人形師（大友柳太郎）のもとで博多人形裏返しの世界を覗く。松崎は死後の世界を目撃して衝撃をうけ、迷宮をさまい、夢うつつのなかでイネと会う。そして、幻聴のような祭ばや

金沢、夕月楼にてお待ち申し候、という品子からの手紙に誘いだされた松崎は、北陸行きの汽車に乗るが、玉脇もまたその汽車に乗っていた。金沢の夜又

ケ池まで亭主持ちの女と若い愛人の心中をみにゆく——玉脇の言葉も謎めいている。
金沢でめぐりあえた品子は、松崎に手紙を出した憶えはないという。「あれは夢の中で書いたもので、おイネさんが手紙にしたのです」

品子との心中をそのかす玉脇から逃れた松崎は、アナキリスト和田（原田芳雄）と知りあい、老人形師（大友柳太郎）のもとで博多人形裏返しの世界を覗く。松崎は死後の世界を目撃して衝撃をうけ、迷宮をさまい、夢うつつのなかでイネと会う。そして、幻聴のような祭ばや

しにみちびかれて奇妙な芝居小屋、陽炎座へ。そこは、子供たちの不思議な芝居と、品子、イネ、玉脇と妖しい人間関係がからみあうあやかしの世界。そして陽炎座は松崎の目の前で崩壊し、夜又ケ池には、玉脇、品子の心中死体が浮かび上る。
魂をうばわれた人間のように東京に帰った松崎のもとに品子からの手紙が届いていた。
うたた寝に恋しき人を見てしより夢てふものは頼みそめてき

*10月10日(土)より話題のロードショー!
特別鑑賞券1200円発売中! 上映時間(連日) 11:00 1:30 4:10 6:50

歌舞伎町
新宿グランドオデオン (202) 0141